

朝日山だより



～平成28年7月1日 久保博子さんのお別れ会 より～

社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホーム ひまわり・こすもす

ヒューマンサポート タッチ・佐賀県発達障がい者支援センター結

〒841-0073

佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahiyaama@grace.ocn.ne.jp

『平成28年度がスタートして』

朝日山学園 施設長 高取 正憲

平成28年度がスタートしました。新年度早々に熊本での地震があり、私も丁度グループホームの宿直をしている時でしたので、揺れを感じた後、直ぐに利用者の安全確認をしたことを覚えています。幸いにもあさひ会においては利用者、建物など影響はありませんでしたが、熊本では避難所生活を余儀なくされた方々も多く、特にその様な状況下で知的障がいや自閉症、或いは医療的ケアが必要とされる方々においてはご苦労なさっている事と推察します。被災された方々が一日も早く、安全・安心で穏やかな生活に戻られることをお祈りいたします。

さて、朝日山学園では新しく2名のスタッフを迎え、館内の再構造化、支援員室、コンテナハウスの2棟新設、支援員室と作業棟の連結など変化に富んだ中でのスタートでした。しかし、予想以上に利用者が環境の変化をスムーズに受け入れることが出来、感心させられました。スタッフも最初はバタバタする場面もありましたが、徐々に慣れてきているようです。

グループホームも新しいスタッフへの業務引継ぎやスタッフの移動を行い、大きく利用者が混乱することなく支援できるようになりました。

今後は新しいグループホーム建設に向け、ハード面、ソフト面を充実させていく必要があります。今後訪れる高齢化に向け、スタッフは今までに積み上げてきた重い障がいを有した方への支援スキルに加え、介護スキルを高めていく必要があります。

障害者総合支援法の施行3年後の見直しの年となりました。社会保障審議会障害福祉部では様々な検討がなされたことと思います。障がい者が望む地域生活の支援の充実、サービスの質の確保・向上に向けた環境整

備などがあげられ、気持ちを新たに利用者支援に向き合っていきたいと思っています。

また、社会福祉法等の一部を改正する法律が本会議で可決され社会福祉法人制度改革と共に福祉人材の確保の促進があげられました。法人改革については、今まで同様健全な運営を行うと共に、地域における公益的な取り組みを行うべく検討しております。福祉人材の確保においてはより効果的な取り組みとなるよう拙に願っています。

☆朝日山学園の取り組み・・・

『活動の見直しについて』

朝日山学園 生活支援員 江藤敬一

昨年度末、朝日山学園では、支援の質の向上を目的とした内部研修や来年度の活動内容、利用者個々の支援の引き継ぎ、環境設定等、新年度に向けた準備を行いました。

朝日山学園の作業の中心は、近隣のコンビニエンスストアや施設等から出るペットボトルを回収しペットボトルのキャップを色別に分別・残渣物出し・洗浄・ラベルの切込み・ラベル外し作業・ペットボトルの圧縮作業があります・その他、地域の家々のダンボールや古新聞紙や雑誌・アルミ缶などの回収作業・業者への廃品だしなどを日中のスケジュールに組み入れ毎日の活動を組み立てています。また天気の良い日は屋外に散歩に出かけ体を動かす機会を設けています。



4月からの活動について話し合いを行い、今年度は、全体で作業に取り組めるような時間、環境を設けることにしました。午後の作業時間以外では新たに、散歩の場所を敷地内駐車場の周りを歩く事に変更しました。



作業エリアの改善として、まずは利用者の方々の障がい特性も考慮し個別エリアで取り組む方、集団エリアで作業する方に大作業室を個別と集団のエリアに仕切りました。個別エリアに机をもうけ、それぞれの利用者の環境に配慮し仕切りをしています。仕切りの高さは敢えて統一した事で、スタッフが館内全体を見渡せるようにもなりました。集団エリアはペットボトルの選別から、キャップ開け、残渣物出し、洗浄、ラベルの切込みと直線で流れ作業が出来るように改善しました。ラベルの切り込みが終わったペットボトルを個別エリアの方々がラベル外し作業やラベルを剥がしたペットボトルをプレス機で圧縮する作業にも取り組みます。今回の作業エリアの改善で、利用者全体でリサイクル作業を共有できるようにしました。

運動面では、駐車場周りの散歩に取り組み、周回表の手立てを基に毎日の運動に取り組まれています。以前は散歩の出来る場所まで移動する時間や公用車の使用も課題でした。その部分も改善される様になりました。

活動を見直し3か月経過しましたが、環境が変わった事での良い刺激もあり、昨年度までには見られなかった利用者の表情や互いの役割を意識する事で作業が理解しやすくなる傾向がある事も発見でした。

今後も定期的に日々の活動を見直しながら、利用者がより充実した毎日が送れるよう取り組みたいと思います。

『内部研修を終えて ～今年度に生かしていること～ 』

朝日山学園 生活支援員 池田めぐみ

昨年度末に朝日山学園で行われた内部研修では、『自閉症の特性』『問題行動と言われる行動について』と『構造化』について学びました。自閉症は、先天的な脳の中樞神経の機能障がいであり、社会性の障がい・コミュニケーションの質的障がい・こだわりと想像力の障がいの特性が見られ、その特性を繰り返し見つめ直し分析していくことがその方の理解を深めることに繋がっていきます。

利用者一人ひとりの見え方、捉え方は違っています。時に問題行動と呼ばれる行動に移ってしまう場合もあります。問題とされる行動が起こることは、その方が『困っている』サインとなります。その原因を探っていく為にデータをとっていくことも必要になっていきます。利用者の方達が伝えられない部分を観察し気付いて支援していくことは、利用者との信頼関係の構築に繋がっていきます。

次に構造化とは、環境の意味を御本人にわかりやすく伝えるものです。構造化の枠組みを見せて伝えることで、『始まり』と『終わり』を伝える事が出来、『変更』や『ルール』を伝えることも出来ます。その中で、スケジュール・ワークシステム・ルーティンの活用を取り入れて実施していき、その方の生活に沿った行動を整えていくことが重要になります。



内部研修で学んだ事を活かし、1人ひとり利用者の特性を理解し、自立に向けた生活ができる様に支援の方法を話し合い、解決を図っていただける様、自己研鑽していきたいと思えます。

『朝日山学園の給食と食事支援・・・』

グループホームひまわり 世話人 光野晃一

日々の生活の中で、給食を楽しみにされている利用者の方は多いです。『今日の給食は何?』『みそ汁の具は何?』等と、献立表を確認して楽しみにされています。私達が生きていく上で『食』



はとても大切です。朝日山学園でも安心して美味しく食べて頂けるように様々な工夫を行っています。その中で日々の献立を決めるにあたり月に一度、利用者を中心にスタッフ、調理員で献立会議を行っています。その中で『カレーが食べたい』などの積極的な意見も聞かれます。また、好きな献立が選択できる『お好みメニュー』もあります。カレーやうどん、スパゲティーそれぞれの好きな内容が採用される機会です。自分の食べたい物や楽しみに出来る物があればモチベーションの向上にも繋がると思えます。また、給食はメニューの中だけで留まらず、頂いた新鮮な野菜を使用して一品加えてみたり、味噌汁の具材を増やしたりするなど日々変化を入れながらバランスや色合いなどを考慮して提供しています。

今度は『食べる』という点からですが、支援を必要とされる方もいますので、嗜好調査を行いそれぞれの個性に合わせてながら環境設定を行っています。それでも中には、拒まれて食べない方もいました。『何故食べ

れないのか・・・』調理の仕方は、揚げてみる？焼く？煮る？提供の仕方はこれで良いのか？環境は？体調は？時間帯かな？量かな？など、あらゆる可能性を考えながら『食べる』という事を真剣に考えていく様になっています。グループホーム利用者の方も同様に日々食事の生活における重要性を常に感じ、健康管理の一環として食事の支援を行っていく必要があると思っています。毎日おいしく、楽しく、安全に食事ができる様に、そして日々のモチベーションの向上につなげられるように、楽しく取り組んでいきたいと思ひます。

☆行事報告・ピクニック（5月）

『ピクニックに行ってきました』

朝日山学園 生活支援員 永原知愛

5月18日から26日の間で「郊外に出て活動し、外出することで楽しめる経験をする」を目的にピクニックを実施しました。

ピクニック当日を迎える前に、お弁当選びという楽しみがあります。メニューを見る前から決めている方、メニューをじっくり見て決める方と選び方は様々でした。当日まで『ピクニックあるよ！』『何のジュース買おうかな？』と皆さんで話をしたり『行事予定表をじっと見つめる方』『ジェスチャーで伝えようとする方』などと、皆さんピクニックに行く事を楽しみにされていました。

ピクニック当日はいずれの日も天候に恵まれ気持ち良く出発することが出来ました。公園に



到着すると何より先にお弁当タイムです。お弁当の中身を教えあったり、他の方のお弁当を覗いてみたりと賑やかな食事の時間でした。

食事の後は、身体を動かしたり、ベンチでゆっくり話をしたりそれぞれの時間を過ごしました。名前を呼びあいボールを蹴ったり、野球をしているグループは、バットにボールが当たるまで何度も何度も「惜しい！あとちょっと！」と声を掛け合い挑戦する姿がありました。滑り台では恐る恐る階段を上り、不安そうに下を見つめる姿もありましたが、スタッフの後に続き滑ることが出来ました。アスレチックにも挑戦しました。滑り台とは反対に率先してスタッフの前に行くこともあり、スタッフもついて行くのに一苦労でした。

公園ではジュースを購入しました。自動販売機の間を行ったり来たりしてじっくり考えて購入している方や中には同じ金額ならとアイスクリームを購入する方もいました。品物を口にした時の皆さんの満面の笑みが忘れられません。中にはアイスクリームを3口程で食べた方もいました。

帰りの車内でもピクニックの思い出話で盛り上がりました。

普段、散歩や廃品出し・回収などで学園を出る機会はありませんが、こうして長時間に渡り、利用者の方皆さんと外に出たのは私自身初めてだ



だったので、学園では見られない姿、表情などを見る事が出来ました。スタッフも利用者の方と一緒に思いっきり体を動かし、一緒に楽しむことが出来たピクニックでした。

☆ボランティア募集しています

朝日山学園では、日中活動のお手伝いをして頂ける方を募集しています。活動内容は、利用者の方との散歩や作業のお手伝いです。

現在、鳥栖市の儀徳町にお住まいの『本石 勇 様』に毎週水曜日と木曜日にボランティアとして散歩のお手伝いをしていただいています。本石さんには心よりお礼申し上げます。これからもよろしく願います。

ボランティアにご協力いただける方はご連絡をお待ちしています。

(TEL 0942-84-3266 係 橋口まで)

◎新しい職員の紹介

あやべ えいじ
綾部 栄次 さん



平成28年4月から生活支援員として朝日山学園にお世話になっています。“ゆったりした気持ちで”を心掛けて支援をさせて頂いています。宜しく願い致します。

なかにしまいか
中西麻衣佳 さん



平成28年4月より、朝日山学園の生活支援員として働いています。利用者の皆さんと共に笑顔の溢れる毎を送れるように努めていきたいと思えます。よろしく願い致します。

◎寄付者ご芳名

H28. 2～6

上田歯科医院 様 上田歯科医院募金頂いた皆様 西村 恵子 様
福島 ツル子 様 永家 カツヨ 様 末藤 久美子 様
原口 敏子 様 八谷 まち子 様

以上の皆様にご協力いただきました。ありがとうございます。

▣編集後記

今回の朝日山だよりの表紙にありますように、久保博子さんが朝日山学園から別の事業所へ移られることになりました。毎日元気に登園され、創作活動ではちぎり絵を中心に文化祭や展覧会に出展されていました。作業ではアルミ缶潰しやペットボトルのラベル剥がしに積極的に取り組まれていました。料理教室ではサンドイッチやカレーを作ってみんなに振る舞ってくれました。とても意欲的で活動的な博子さん。これからは違う所での生活になりますが、朝日山学園での経験を力に、笑顔を忘れずご活躍ください。今までありがとうございました。

(菅)